令和８年度

成瀬ダム建設事業マネジメント委員会資料

１．成瀬ダム建設事業の概要・・・・・・P. 1
２．前回委員会の意見と対応・・・・・・P. 9
３．成瀬ダム建設事業の事業監理・・・・P. 11
４．令和７年度事業実施状況・・・・・・P. 35
５．令和８年度事業計画・・・・・・・・P. 48

（※「不開示情報」を省いた構成にしております）

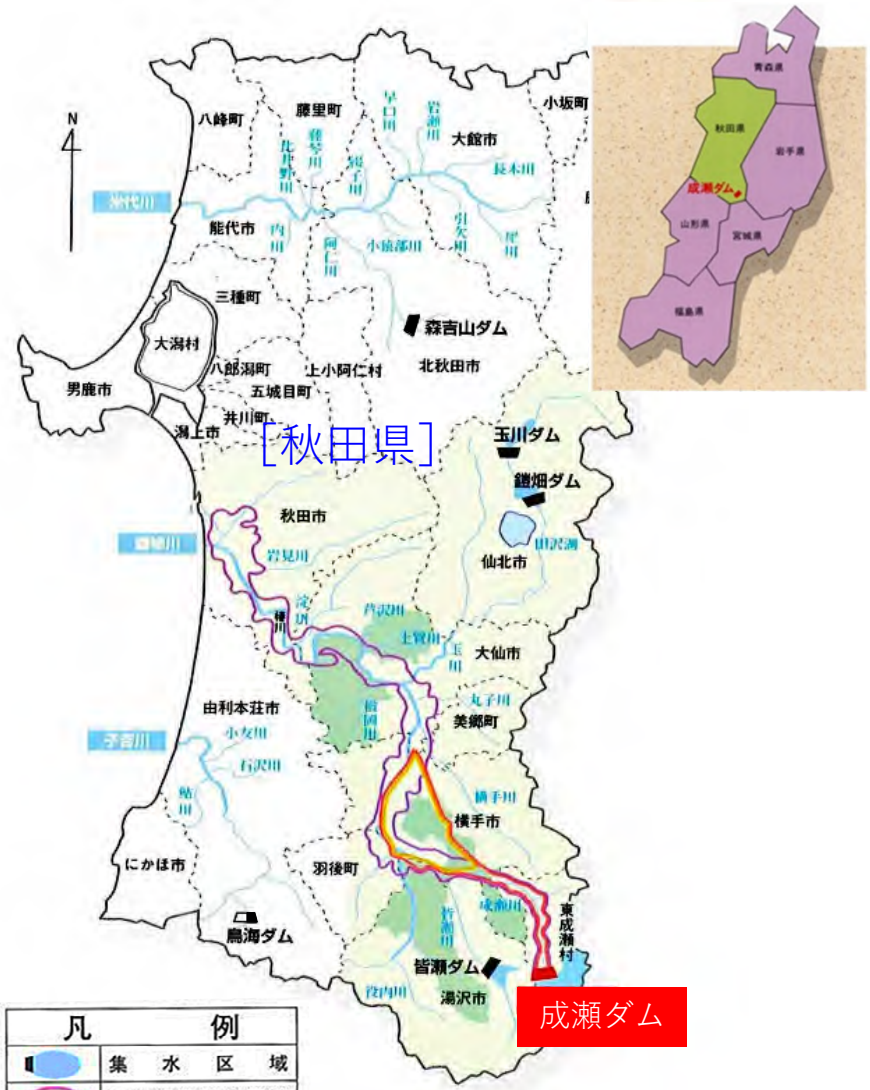
令和８年７月９日（木）

東北地方整備局　成瀬ダム工事事務所

１．成瀬ダム建設事業の概要

成瀬ダム建設事業の計画概要

■ 雄物川流域図



秋田県雄勝郡東成瀬村
（雄物川水系成瀬川）

事業費　　約2,600億円
工　期　　令和9年度

■ 成瀬ダムの目的

①洪水調節

成瀬ダムの建設される地点における計画高水流量460m^3/s
のうち、410m^3/sの洪水調節を行います。

②流水の正常な機能の維持

成瀬ダム下流において　既得用水の補給や河川環境の
機能維持と増進を図ります。

③かんがい

皆瀬川、成瀬川及び雄物川沿岸の平鹿平野地区約10,050ha
の農地に対するかんがい用水の補給を行います。

④水道（湯沢市、横手市、大仙市）

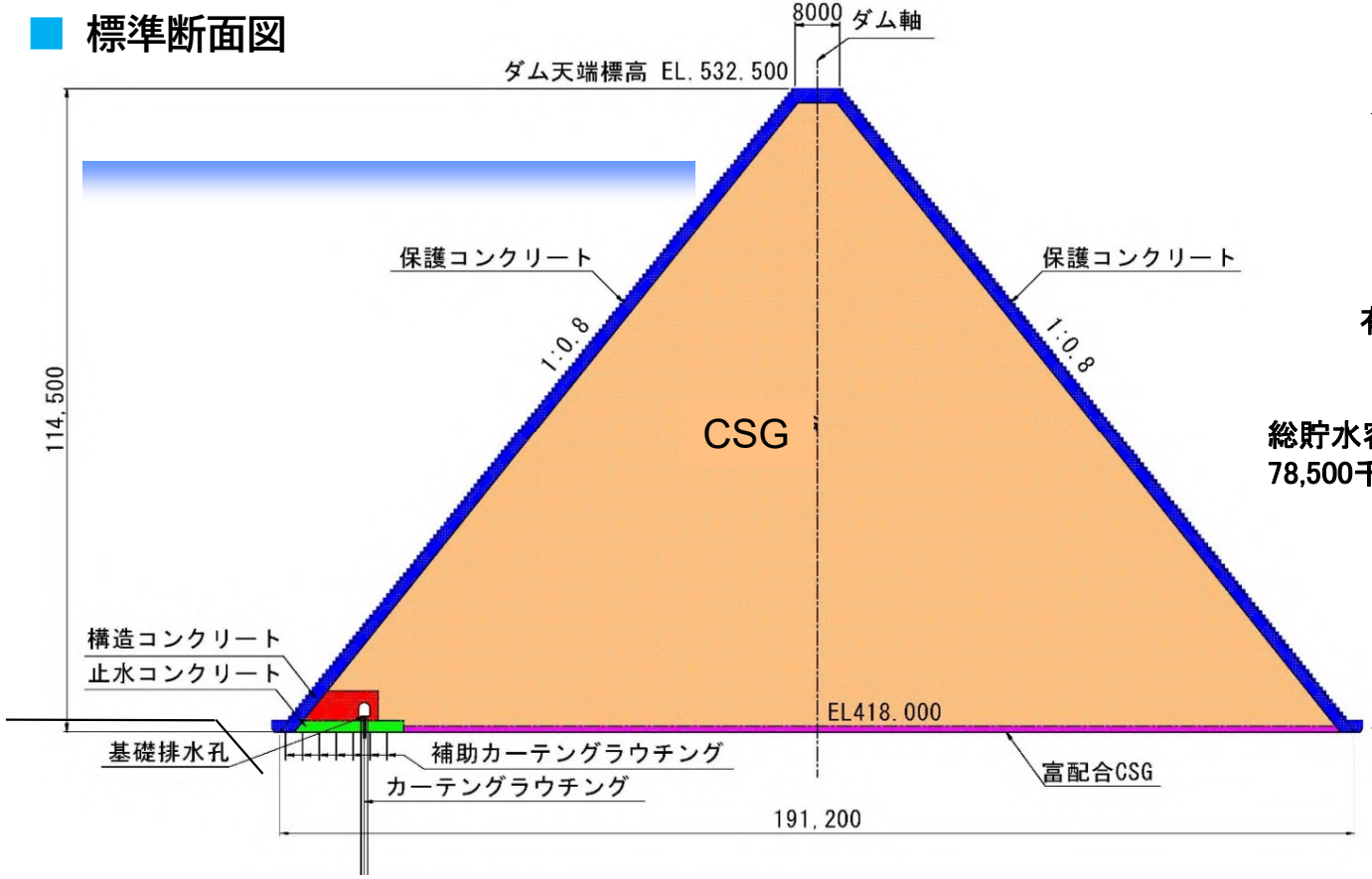
湯沢市、横手市、大仙市に対して、新たに1日最大13,164m^3
の水道用水の取水を可能にします。

⑤発電（秋田県）

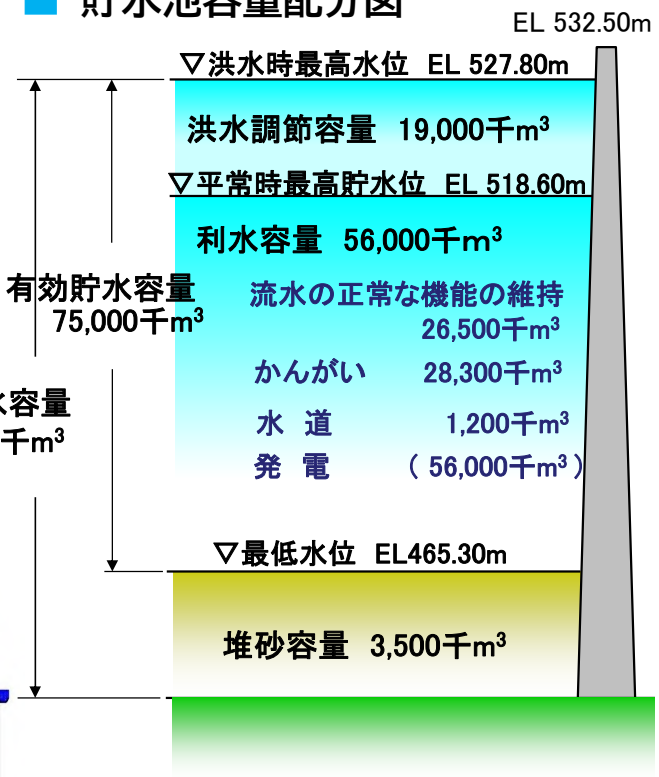
成瀬ダムの建設に伴って新設される成瀬発電所において、
最大出力5,800kwの水力発電を行います。

成瀬ダムの諸元

■ 標準断面図



■ 貯水池容量配分図



■ 成瀬ダムの諸元

施　設　名	成瀬ダム	備　考
ダ ム 型 式	台形CSGダム※	
ダ ム 高	114. 5m	台形CSGダムで日本一
堤 頂 長	755. 0m	台形CSGダムで日本一
堤 体 積	4, 850千m³	台形CSGダムで日本一
総 貯 水 容 量	78, 500千m³	台形CSGダムで日本一
湛 水 面 積	2. 26km²	
集 水 面 積	68. 1km²	

※台形CSGダム

台形CSGダムは、建設現場周辺で手近に得られる石や砂れきとセメント、水を混合してつくるCSG（Cemented Sand and Gravelの略）を使い、堤体の上流面と下流面が同じ勾配をもつ台形型に造るダム型式です。

この台形CSGダムは、日本で開発された比較的新しいダム型式です。

事業経緯

昭和58年	4月	実施計画調査開始（秋田県）
平成3年	4月	国直轄事業に移行（現：湯沢河川国道事務所所管）
平成9年	4月	建設事業着手
平成13年	5月	基本計画官報告示（H13.5.29：国土交通省第887号）事業費：1,530億円　工期：平成29年度
平成13年	10月	下流工事用道路工事着手　※岩井川地区L=3.28km
平成15年	3月	用地補償基準妥結
平成17年	3月	付替国道342号工事着手
平成20年	1月	「雄物川水系河川整備基本方針」策定（H20.1.28）
平成21年	3月	仮排水トンネル着手
平成21年	12月	下流工事用道路完成（供用開始）
平成21年	12月	検証の対象となるダム事業に選定
平成24年	4月	付替国道342号一次供用区間開通
平成24年	8月	仮排水トンネル完成
平成25年	1月	ダム検証に係る対応方針決定（継続）（H25.1.25）
平成26年	3月	基本計画（第1回変更）告示（H26.3.12：国土交通省第304号）事業費：1,530億円　工期：平成36年度
平成26年	4月	成瀬ダム工事事務所開所
平成26年	11月	「雄物川水系河川整備計画」策定（H26.11.28）
平成29年	3月	新事務所庁舎開所（H29.3.23）
平成29年	4月	「雄物川水系河川整備計画」変更（H29.4.13）　※ダム型式変更
平成29年	9月	基本計画（第2回変更）告示（H29.9.12：国土交通省第822号）　※ダム型式変更（ロックフィルダム→台形CSGダム）
平成30年	3月	仮排水トンネルへ転流開始（H30.3.26：転流式）
平成30年	9月	ダム本体工事着工（H30.9.15：着工式）
令和元年	10月	ダム堤体打設開始（R1.10.15：初打設式）
令和3年	9月	基本計画（第3回変更）告示（R3.9.10：国土交通省第1255号）事業費：2,230億円　工期：令和8年度　本体打設量100万m3到達(10月)
令和4年	5月	定礎式（R4.5.14）
令和5年	4月	付替国道342号全線開通式（R5.4.29）
令和6年	8月	基本計画（第4回変更）告示（R6.8.27：国土交通省第1113号）事業費：2,600億円　工期：令和9年度
令和6年	11月	ダム堤体CSG打設完了（R6.11.20：CSG打設完了式）
令和7年	9月	管理庁舎建築工事完成（R7.9.30）
令和7年	11月	堤体打設完了（R7.11.18：堤体打設完了式）

堤体打設完了式（令和7年11月18日）

国土交通省　東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

○成瀬ダムは平成30年9月に本体工事に着工し、令和元年10月15日に堤体の初打設を開始。その後工事を進め、令和7年11月18日に堤体積約485万㎥の打設を完了。
○工事の節目であることから関係者出席のもと「堤体打設完了式」を開催。

■ 開催日時　令和7年11月18日（火）15時～
■ 実施場所　成瀬ダム左岸天端
■ 主　　催　鹿島・前田・竹中土木特定建設工事共同企業体
■ 出 席 者　東成瀬村、成瀬ダム工事事務所、
　　堤体JV、協力会社　　合計223名

■ 式典次第
①挨　拶　：成瀬ダム工事事務所長　野口 暁浩
②打設合図：堤体JV グループ長　高橋 勝也
③ダンプ・ハンドバイブレーターによる打設
④万歳三唱：堤体JV工事事務所長　小倉 精太
⑤全体記念撮影

○式典



①挨拶（野口所長）



②打設合図





③ダンプ・ハンドバイブレーターによる打設





④万歳三唱（小倉ＪＶ所長）



⑤全体記念撮影

（打設完了高　EL532.5m）



成瀬ダム施工状況写真①

国土交通省　東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所



令和8年6月16日撮影

成瀬ダム施工状況写真②

◆ダムサイト左岸を望む



令和8年6月16日撮影

成瀬ダム施工状況写真③

◆ダムサイト右岸を望む



令和8年6月16日撮影

２．前回委員会の意見と対応

前回委員会(R7.7.7)の意見と対応

	意　見	対　応
令和６年度事業実施状況について	令和６年度は予定された事業が計画どおりに実施していることを確認した。	―
令和７年度事業計画について	令和７年度に予定されている事業計画と現在までの事業実施状況を確認した。	―
事業監理について	引き続き、受発注者一体となり、安全・品質を確保したうえで、さらなるコスト縮減に努めるとともに、事業監理を徹底し計画どおり事業を進めること。	・安全管理の取組については、計７回の安全パトロールの実施や事故防止安全委員会総会を開催するなど、安全管理に努めた。［関連ページ(P26, 27)］ ・品質管理の取組については、ＣＳＧ施工技術委員会にこれまで得られた成果を報告し助言を頂くなど、品質管理に努めた。［関連ページ(P23)］ ・コスト縮減の取組については、受発注者が一体となり多数のコスト縮減の検討を行い、コスト縮減推進室において取り纏めを行った。［関連ページ(P14～21)］ ・これまでと同様に事業費、工期の面から事業監理の徹底に努めた。
	ＤＸ、人材育成、広報、環境保全の取り組みを継続するとともに、将来の管理に向け、成瀬ダム及びその周辺の特長に合った地域活性化の取り組みを実施することが望ましい。	・監督行為の合理化（ＤＸ）、教育機関や国交省職員向けの現場見学（人材育成）、アドベンチャーバスツアー（広報）、環境保全の取組等を継続した。［関連ページ(P24, 32, 33)］ ・水源地域ビジョンの取組、ダムツアー、上下流交流会、成瀬の森づくり等、ダムを活用した地域振興の取組を実施した。［関連ページ(P29～31)］
	成瀬ダムで検討した技術的データを後発のダム等でも活かしていただきたい。	・第７回成瀬ダムＣＳＧ施工技術委員会（R7.10.28）において、後発の台形ＣＳＧダムおよびダム事業に従事する職員への技術継承を目的として委員会の総括を行い、後発ダムに向けての留意点・技術継承等について取りまとめた。［関連ページ(P23)］ ・今後、後発ダムへ伝承する予定。

３．成瀬ダム建設事業の事業監理

コスト縮減の取り組み

コスト縮減【コスト縮減ミーティング】

成瀬ダムコスト縮減推進室

〇安全と品質の確保を最優先に、継続的かつ実効性あるコスト縮減活動を推進するため、成瀬ダムコスト縮減推進室を設置。

成瀬ダムコスト縮減に関する行動指針

1. 基本的事項
・事業の全プロセス、全項目を対象に、品質と安全以外の聖域を設けず、コスト縮減の観点からの点検を実施。
・点検の結果、金額の大小によらず縮減可能な項目は全て見直す。
・業務、工事の増工額100万円以上について、所内変更伺いの徹底。
・業務、工事の施工承認時にコスト縮減検討内容を説明。

2. 点検の視点
・上記基本的事項に基づき、下記視点からの点検を実施し、コスト縮減を検討。

調査
計画
設計
積算
施工
管理
LCC

(1)調査・計画にさらなる見直しの余地はないか？
(2)求められる性能に対し、過大なものとなっていないか？
(3)真に必要な機能に限定しているか？(「あれば便利」はいらない)
(4)過剰な品質・安全(オーバークオリティ)になっていないか？
(5)景観デザインを優先しすぎてコスト高を招いていないか？
(6)施工歩掛り、資材等単価見積りの妥当性をチェックしているか？
(7)工法比較を適正に行っているか？
(8)施工計画にさらなる工夫の余地はないか？

3. 民間技術力の活用
・設計コンサルタントや施工JVとの対話を通じたコスト意識の共有と醸成。
・プロポーザルの技術提案におけるコスト縮減に資するテーマ設定や業務、工事における三者会議の活性化等、民間技術力を引き出す取り組みの充実。

4. フォローアップ
・「コスト縮減推進会議」を設置し、関係者間で取り組み内容と進捗状況等を共有、PDCAサイクルによる見直し、フォローアップ等継続的監理の実施。
・成瀬ダム建設事業マネジメント委員会において、目標に対する取り組み状況の報告、結果の公表。

【コスト縮減推進ミーティング】

■ 目的
- 所内の役割と責任を明確化し、情報の共有と対応レスポンスの向上を図る。
- 「計画・設計」、「施工」、「維持管理」等の各分野におけるコスト縮減項目の把握・分析を行う。
- 関係者間で取り組み内容と進捗状況等を確認、PDCAサイクルによる見直しを図り、フォローアップ等による継続的監理を実施する。

■ 開催状況
- 第1回ミーティング(R3.8.20)
- 第2回ミーティング(R3.12.8)
- 【書面】ミーティング(R4.3.18)
- 第3回ミーティング(R4.6.9)
- 第4回ミーティング(R4.9.14)
- 第5回ミーティング(R4.12.1)
- 第6回ミーティング(R5.2.2)
- 第7回ミーティング(R5.3.14)
- 第8回ミーティング(R5.12.7)
- 第9回ミーティング(R6.2.21)
- 第10回ミーティング(R6.4.10)
- 第11回ミーティング(R6.7.19)
- 第12回ミーティング(R6.11.6)
- 第13回ミーティング(R7.2.27)



第17回開催状況

- 第14回ミーティング(R7.5.22)
- 第15回ミーティング(R7.9.19)
- 第16回ミーティング(R8.2.27)
- 第17回ミーティング(R8.6.17)

【施工JV等との技術的対話】民間技術力を引き出す取組み

■ 目的
- 設計コンサルタントや施工JVとのコスト縮減意識の共有と醸成を図り、民間技術力の積極的活用を図る。
- プロポーザルの技術提案におけるコスト縮減に資するテーマ設定や、業務、工事における三者会議の活性化等、民間技術力を引き出す取り組みの充実を図る。

■ 開催状況
- 工事調整会議(R3.9.27)
- 工事調整会議(R3.12.21)
- 工事調整会議(R4.4.11)
- 工事調整会議(R4.7.6)
- 工事調整会議(R4.12.20)
- 工事調整会議(R5.4.19)
- 工事調整会議(R5.12.18)
- 工事調整会議(R6.6.7)
- 工事調整会議(R6.12.11)



開催状況(令和7年4月24日)

- 工事調整会議(R7.4.24)
- 工事調整会議(R7.9.29)
- 工事調整会議(R8.2.10)

コスト縮減【これまで報告済み項目一覧】

種別	検討項目	年度
堤体工事	・粗掘削後の岩盤清掃の機械化施工	R1
	・モルタル仮吹付範囲の見直し	R1
	・工事用道路における盛土施工仕様の見直し	R1
	・ロックボルト頭部キャップの材料見直し	R1
	・左岸ゆるみ頭部排土標高の見直し	R1
	・右岸段丘部の基礎掘削標高の見直し	R1
	・原石山掘削形状の見直し	R2
	・付替林道における雪崩防護柵の削減	R2
	・コンソリデーショングラウチングの範囲見直し	R2
	・転流工締切表面構造の見直し	R3
	・右岸段丘部の基礎掘削標高の見直し	R3
	・岩盤面処理の機械化施工	R3
	・コンソリデーショングラウチングの省略	R3
	・管理者との協議により林道の補償延長見直し	R3
	・左岸上流掘削形状の見直し（盤上げ）	R4
	・岩盤スケッチの作業性向上	R4

種別	検討項目	年度
堤体工事	・エレベーターの配置見直し	R4
	・堤体変形計測方法の見直し	R4
	・材料使用計画を踏まえた堤体配合区分の見直し	R4
	・造成岩盤置換コンクリートの供給方法見直し	R4
	・右岸リム部のカーテングラウチング計画の見直し	R4
	・地すべりアンカーの設計見直し	R4
	・仮設運搬路の残置（堤体下流）	R4
	・堤体下流右岸のバックフィル(工事進入路)の残置	R5
	・仮設運搬路の残置（堤体上流）	R5
	・堤体下流排水工（排水材）の見直し	R5
	・エレベータシャフト廻りの配合見直し	R5
	・堤頂部コンクリート打設の仮設計画見直し	R7
	・堤体(CSG部)越冬養生の覆土厚の見直し	R7
	・下流部及び天端部保護コン設計厚の見直し	R7
	・規格外フライアッシュの有効活用	R7
	31件	

コスト縮減【これまで報告済み項目一覧】

種別	検討項目	年度
付替国道	・トンネル円形側溝へのスリップフォーム工法採用によるコスト縮減	H21
	・トンネル照明の選定に伴うコスト縮減	H23
	・トンネル坑口部の掘削方法見直し	R1
	・トンネルの掘削工法の見直しによる減	R3
	・狐狼化山トンネルの埋設物鞘管条数の見直し	R4
	・狐狼化山トンネル照明器具、配線取付金物を見直し	R4
	・狐狼化山トンネル警報表示板を従来型から薄型へ見直し	R4
	7件	
管理設備	・東成瀬村との調整によるコスト縮減	H28
	・管理庁舎内発動発電機を発電機盤搭載型へ見直し	R4
	・管理庁舎設計の見直し	R4
	・管理庁舎内無停電電源設備において長寿命MSE形蓄電池を採用	R4
	・監査廊の照明においてLED光源を採用	R4
	・狐狼化山トンネルの照明においてLEDを採用	R4
	・管理庁舎（１階）コンクリート打放し壁面の使用型枠の見直し	R5
	7件	
工事用道路	・カゴマットへの現地発生材の利用によるコスト縮減	H20
	・伐採木のチップ化による植生基材への利用によるコスト縮減	H20
	2件	

種別	検討項目	年度
成瀬ダム工事事務所庁舎	・新庁舎の施設見直し	H28
	・庁舎駐車場の舗装構成見直し	H29
	2件	
原石山工事	・材料ストック計画見直し	R4
	・材料品質の迅速判定技術による材料採取の合理化	R5
	・原石山法面保護工の見直し	R7
	・段丘材の有効利用	R7
	4件	
上流迂回路	・法面植生工の客土吹付工法採用によるコスト縮減	H22
	・夢仙人大橋終点部の一次供用区間拡幅の擁壁構造の見直し	R7
	2件	
付替林道	・付替林道の計画見直し	H30
	1件	
仮締切工	・仮締切工の締切表面の構造見直し	R1
	1件	
埋蔵文化財発掘調査	・埋蔵文化財調査にかかる調査対象遺跡の変更	R4
	1件	
貯水池整備	・貯水池伐採を公募による施工に見直し	R7
	1件	

計59件

コスト縮減【新たに適用可能となった項目一覧】

コスト縮減【新たに適用可能となった項目】

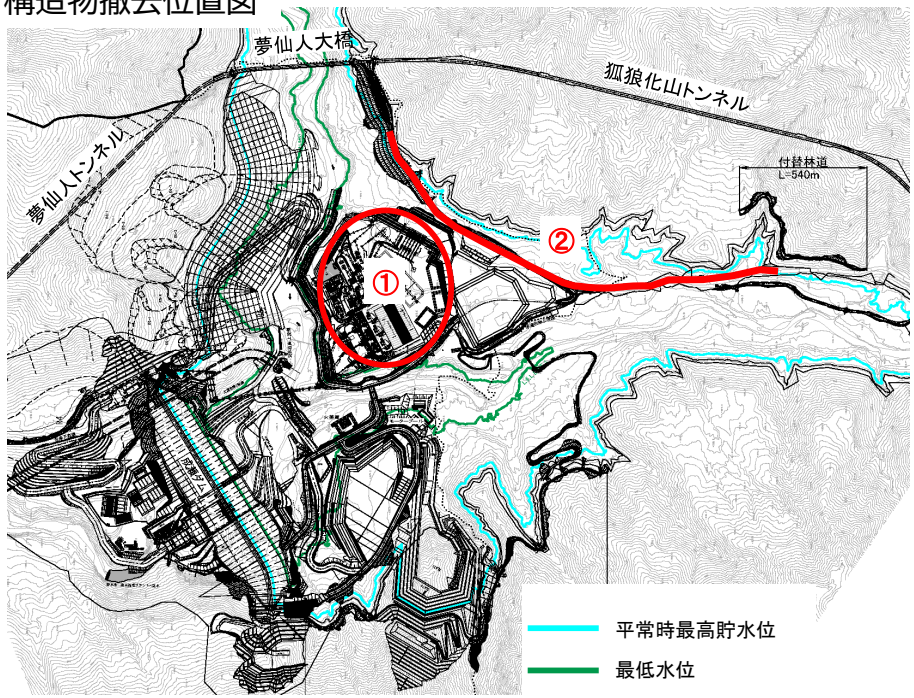
番号	種別	段階	検討項目	検討内容	縮減額（百万円）
①	貯水池整備	計画	貯水池内構造物の転用により撤去費用の縮減	・現計画では撤去を予定していた仮設備の基礎コンクリートについて、ダム運用上必要性がある構造物は残置することで撤去費用を縮減。	224
②	貯水池整備	計画	網場の水中アンカーブロックの計画見直し	・網場の水中アンカーブロックについて、当初は新規にブロックを造成する計画であったが、仮設備のホッパ基礎を活用することにより係留環(けいりゅうかん)の設置のみとし、施工費用を縮減。	2
③	堤体工事	施工	右岸下流管理用道路の構造見直し	・右岸下流管理用道路については、一般車は乗り入れない管理用道路であるため、舗装・側溝・防護柵設置はとりやめ、施工費用を縮減。	256
④	堤体工事	施工	取水塔カーテンウォール部仮設計画の見直し	・取水設備の施工に必要な仮設足場を設置するにあたって、取水設備内の残雪除雪が課題となっていた。 ・除雪作業の軽減、工期短縮、コスト縮減を目的に、積雪の影響を受けないカーテンウォール上端部に仮設梁を設置し、そこから足場を立ち上げる施工に変更した。	23
⑤	堤体工事	施工	量水標設置範囲の見直し	・堤体に設置する量水標の設置枚数を減らすことでコスト縮減を図る。 ・当初設計では底部のEL436.0mから設置を想定していたが、貯水池運用を踏まえ底部取水口下部のEL443.0mまでの7枚分を縮減した。	2
⑥	堤体工事	施工	R7年度除雪範囲の見直し	・事業全体工程を確保するため、4月上旬から工事着手することが重要である。このため、堤体工、減勢工、仮排水トンネル、濁水処理設備運転工、重機分解組立、取水設備について、残雪除雪を2月中旬～3月初旬から実施していたものである。積雪状況、全体事業工程を加味し、除雪範囲を削減した。	23
⑦	電気工事	施工	配電線工事電源ケーブルの仕様変更	・国交省発注工事の電源ケーブルは一般的にCVケーブルを採用しているが、CVTケーブルの規格（仕上外径）が大きいものほど安価であったため、CVTケーブルへの規格変更によりコスト縮減・工程短縮を図る。 ・各計測機器用に敷設予定であったアナログ通信ケーブルについて、一部アナログ通信が必要なゲート動作中信号用及び非常停止用のアナログ通信ケーブル以外の敷設をデジタル光ケーブルの通信方式に変更し、コスト縮減を図る。	15
合計					545

コスト縮減（新たに適用可能となった項目（代表事例1））

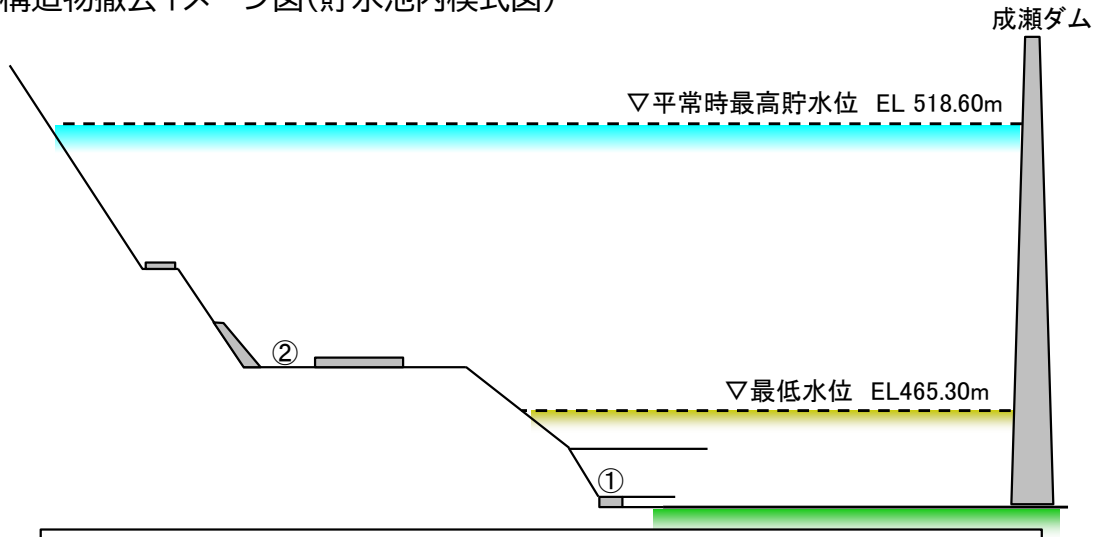
●貯水池内構造物の転用により撤去費用の縮減【縮減見込額　約224百万円減】

● 現計画では撤去を予定していた仮設備の基礎コンクリートについて、ダム運用上必要性がある構造物は残置することで撤去費用を縮減。

構造物撤去位置図



構造物撤去イメージ図（貯水池内模式図）



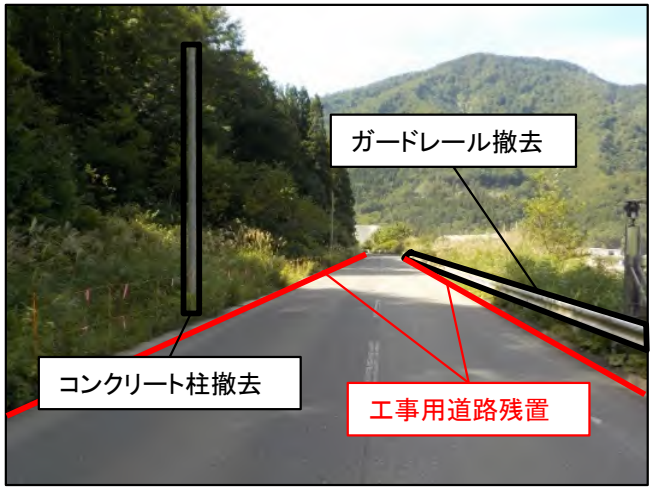
○ダム工事に伴い、将来の貯水池内にある必要性が無い構造物は、基本撤去とする。
○下記の、ダム運用上必要性がある構造物は、残置する方針。
・土砂流出防止機能や、地山の安定性確保機能を有するコンクリート構造物
・河岸の流出防止機能や、河道の安定性確保機能を有するコンクリート構造物
・維持管理用の通路の機能を有する管理用道路（道路舗装等）

構造物写真

① 【赤滝プラントヤード（基礎コン）】



② 【上流迂回路】

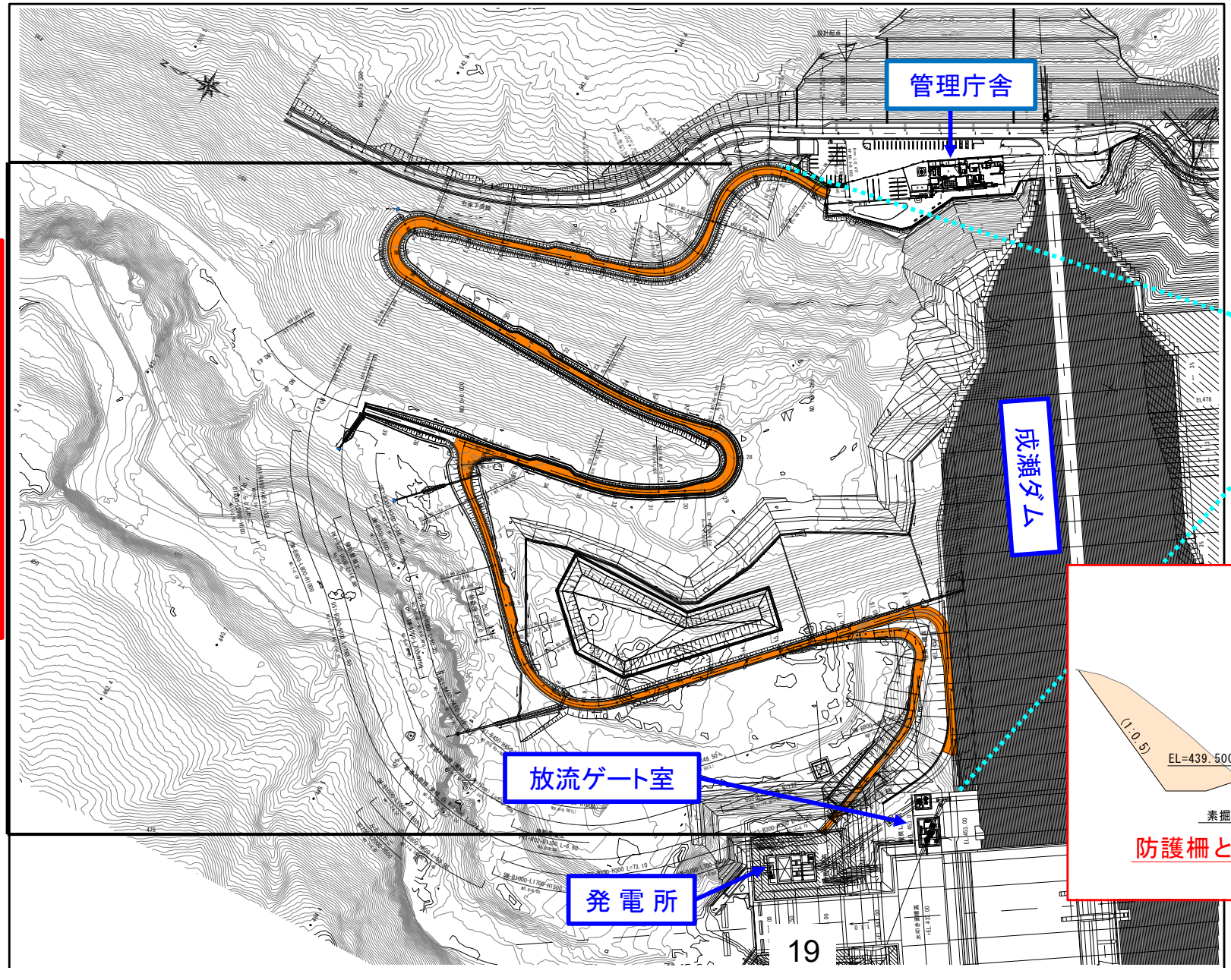


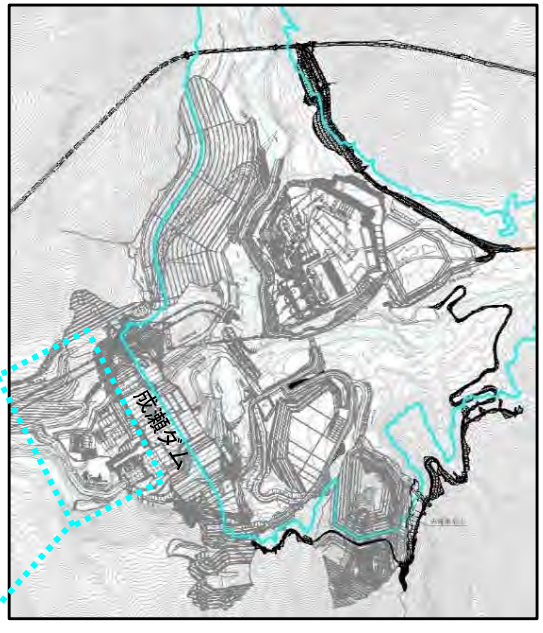
コスト縮減（新たに適用可能となった項目（代表事例2））

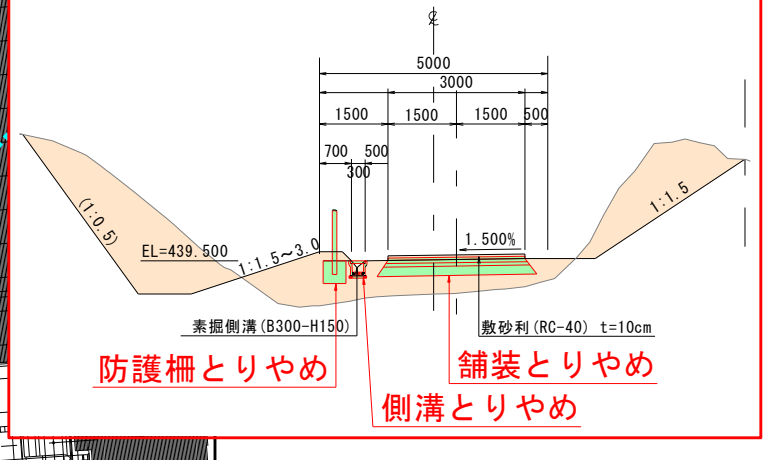
国土交通省　東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

●右岸下流管理用道路の構造見直し【縮減見込額　約256百万円減】

- 右岸下流管理用道路について、一般車は乗り入れない管理用道路であるため、舗装・側溝・防護柵設置はとりやめ、施工費用を縮減。







コスト縮減（新たに適用可能となった項目（代表事例3））

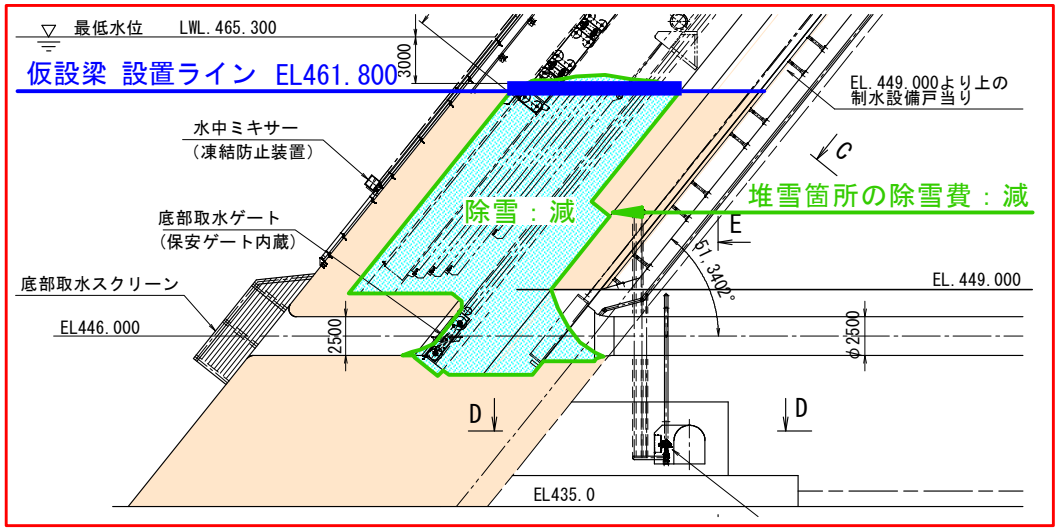
国土交通省　東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

●取水塔カーテンウォール部仮設計画の見直し【縮減見込額　約23百万円減】

- 取水設備の施工に必要な仮設足場を設置するにあたって、取水設備内の残雪除雪が課題となっていた。
- 除雪作業の軽減、工期短縮、コスト縮減を目的に、積雪の影響を受けないカーテンウォール上端部に仮設梁を設置し、そこから足場を立ち上げる施工に変更した。



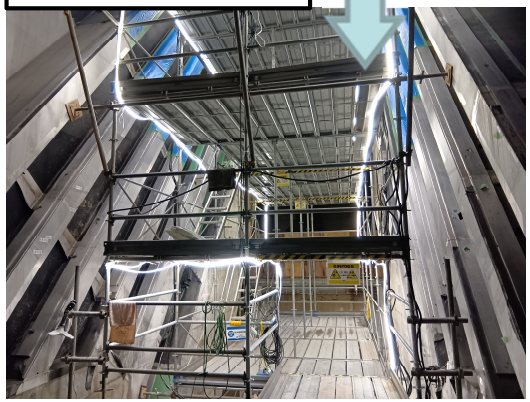
○ カーテンウォール部仮設梁設置計画



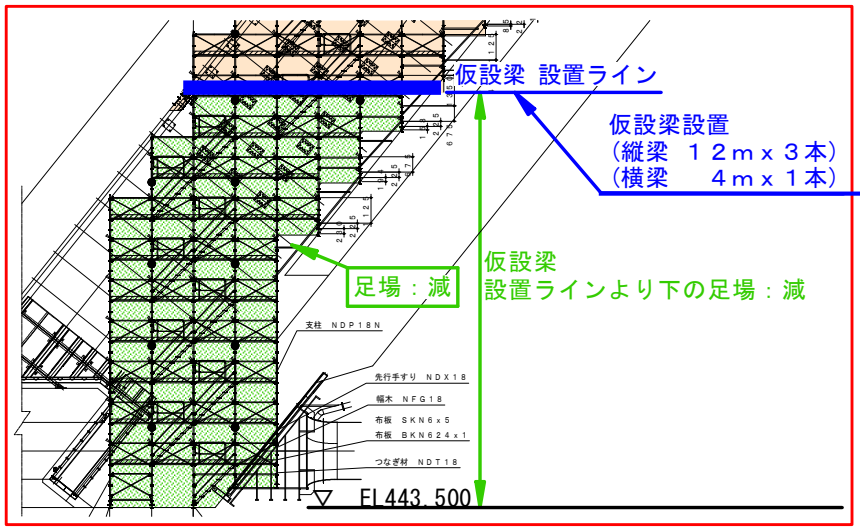
R7.4.2取水塔内除雪状況



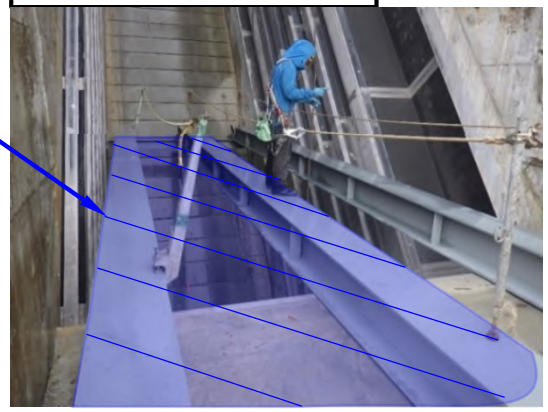
除雪後の足場の状況



○ カーテンウォール部仮設梁設置計画



R7.11.10仮設梁据付状況



増分：仮設梁製作・据付費用
減分：取水塔内除雪費用、カーテンウォールから下の足場設置・撤去費用縮減

コスト縮減【今後の検討項目一覧】

コスト縮減

番号	種別	段階	検討項目	検討内容
①	堤体工事	施工	防護柵の再利用	・平常時最高貯水位以下になる右岸上流展望台で使用している防護柵を撤去して、ダムの左岸頂部から付替林道4までの区間で再利用を検討。
②	堤体工事	施工	基礎処理工カーテングラウチング追加基準の緩和について	・カーテングラウチングの追加施工においてこれまで確実な岩盤改良のために規定孔のメッシュを分割し4次孔メッシュに対する追加施工を行っていた。 ・これまでの4次孔メッシュの施工実績から、3次孔メッシュでも確実な岩盤改良ができる可能性があるため、見直しを検討。
③	堤体工事	施工	基礎処理工カーテングラウチング計画の見直し	・カーテングラウチングの改良深度について、パイロット孔の施工結果を踏まえ、上下流方向のつながりも考慮した立体的岩盤透水性評価により、各ゾーンの低透水性岩盤の設定を検討。

※今後想定される項目を抽出したものであり、現場条件等により変更する場合がある。

品質確保の取り組み

技術開発・品質確保の取り組み【成瀬ダムCSG施工技術委員会】

【委員会の目的】

- 日本最大で、堤高100mを超える台形CSGダムの施工・品質管理手法や新技術に関して指導・助言をいただき、成瀬ダムの円滑な工事進捗に資することを目的に平成30年度に設立。これまで、「本体工事の施工状況」、「確認試験実施状況」、「品質管理記録」等について説明を行い助言をいただいた。

【成瀬ダムCSG施工技術委員会　委員名簿】

	氏名	所属・役職
委員長	河野　広隆	京都大学 経営管理大学院 名誉教授
委員	久田　真	東北大学大学院 工学研究科 教授
委員	石田　哲也	東京大学大学院 工学系研究科社会基盤学専攻 教授
委員	吉田　等	一般財団法人 ダム技術センター　ダム技術研究監
委員	川崎　将生	国土技術政策総合研究所　河川研究部長
委員	林　雄一郎	東北地方整備局　河川部長（WEB出席）
委員	野口　暁浩	東北地方整備局　成瀬ダム工事事務所長

（敬称略、委員・所属・役職は、R7年10月時点）





【成瀬ダムCSG施工技術委員会　開催経緯】

	年月日	開催場所	議事	主な意見
第1回	H30.11.26	ホテルブラン、ダムサイト	・委員会設立趣旨、規約確認、委員長選出 ・成瀬ダムの概要、堤体工事及び原石山工事の状況、確認試験結果の概要（発注前試験含む）	・設立趣旨及び規約について了承された。 ・コンクリート骨材の購入材は、今後も受け入れ検査を十分に行うこと。
第2回	R1.10.1	ホテルブラン、ダムサイト	・委員構成（委員追加）、前回委員会の議事概要 ・成瀬ダムの概要及び工事の進捗状況、堤体工事及び原石山工事の状況（母材採取状況等）、確認試験の実施状況	・確認試験における「ブルドーザ転圧仕様の確認」、「CSG経時変化試験」、「CSG転圧完了許容時間」は、関連性が高いと考えられるため、材料の品質に配慮して整理が必要である。 ・ダンプからCSGを降ろした際、降ろしたCSGが塊になる等、様々な状態があることを想定して試験を行うこと。現場が急速に変わっていくため、年1回と決めるのでなく、現場状況に合わせて委員会の開催を検討すること。
第3回	R4.2.8	Web会議	・委員構成（委員長選出）、前回委員会の議事概要 ・本体工事の進捗状況及び品質管理記録、確認試験の実施状況	・委員互選により、河野委員が委員長として選出された。 ・自動化施工に関し、行った工夫・品質確保のために現場で行っている工夫について資料に残しておくことが重要。
第4回	R4.9.16	ホテルブラン、ダムサイト	・前回委員会の議事概要 ・本体工事の進捗状況及び品質管理記録、確認試験の実施状況	・現場で試行している「画像解析による粒度測定」は、精度管理や測定頻度に関して最も適した方法を検討し、CSG打設全体の品質向上に寄与するシステムとすることが望ましい。 ・「フライアッシュの活用」に関する確認試験を計画しているが、CSGの混和材としてフライアッシュを活用することができれば、施工性・品質の観点等から大きなメリットとなる。なお、CSGの強度・経時変化の改善を確認出来る試験とすることが望ましい。
第5回	R5.8.2	ホテルブラン、ダムサイト	・前回委員会の議事概要 ・本体工事の進捗状況及び品質管理記録、確認試験の実施状況	・CSGの転圧を無人化で施工した場合と有人で施工した場合では生産性の向上に加えて、安定した品質の向上が見込まれるため、それに応じたとりまとめを行うこと。 ・今日まで進めてきた打設進捗データや品質管理データのトレーサビリティをCIMやGISなどにまとめ、DX化をすること。
第6回	R6.8.21	ホテルブラン、ダムサイト	・前回委員会の議事概要 ・本体工事の進捗状況及び品質管理記録、確認試験の実施状況	・自動化施工と有人での施工箇所を比較し、CSGの転圧に差異が無いか取りまとめること。 ・水分量を抜き取りから連続監視にした事による効果を定量的に整理すること。 ・JIS外フライアッシュをCSGに活用するにあたり、品質を確認すること。
第7回	R7.10.28	ホテルブラン、ダムサイト	・前回委員会の議事概要 ・本体工事の進捗状況及び品質管理記録、確認試験の実施状況	・後発ダムへの留意点として、デメリットな点も伝えるべきである。また、後発ダムにとって目標値や得られる効果のイメージが、より具体的、客観的に伝わるように整理すると、更に良いものになる。 ・成瀬ダムのCSG施工を通じた取り組みによって、生産性がどれだけ向上したかについても整理して欲しい。等

[DX]ビデオオンデマンド化による生産性向上(試行)

国土交通省 東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

○基礎処理のボーリングの検尺については、特記仕様書の段階確認において削孔完了時に削孔長の検測を行うことが規定されており、これまでは監督職員が（遠隔を含む）臨場確認を実施。
○成瀬ダムにおける基礎処理のボーリング本数は約4,600本、延長は約152,000mと膨大であり、かつ、ボーリングの検尺は、ロッド引き抜きを監視し、その後、延長を確認することから確認そのものに時間を要する。(1日複数回の立会を行う場合も)また、少ない人員で監督業務を担当しているため監督職員の都合によっては、現場で「待ち」が発生、円滑な工事進捗に影響を与える可能性がある。
○監督職員の検尺に要する時間（移動、引き抜き）を短縮するとともに、臨場検査等による現場（受注者）の「待ち」を最小化するため、立会検査、遠隔臨場に加え、業務の効率化のためビデオオンデマンドによる確認も可能とすることとした。(受発注者双方の業務効率化)
○引き続き、展開可能な工種を検討し、成瀬ダム建設事業全体の生産性を向上に努める。

■ 従来の立会検査

監督職員は往復の移動時間と立会時間を要し、受注者は待機時間と立会時間を要していた。

		工　程					時間的コスト
立会検査	監督職員	－	別業務	移動（60分）	引き抜き立会（60分）	移動（60分）	180 分
	受注者	削孔	待機（α）	待機（60分）		注入	120+α 分

■ 遠隔臨場[STEP1]

監督職員の移動時間が不要になり、受注者の待機時間が短縮された。

遠隔臨場	監督職員	－	別業務	引き抜き立会（60分）	－	－	60 分
	受注者	削孔	待機（α）		注入	削孔	60+α 分

■ ビデオオンデマンド(VOD)[STEP2]

監督職員は時間の制約なく確認ができ、受注者はロッドの引き抜き撮影のみとなり、次の作業に着手が可能となった。

ビデオオンデマンド（VOD）	監督職員	－	別業務	空き時間に確認（倍速等を活用）			15 分
	受注者	削孔	引き抜き撮影（60分）	注入	削孔	引き抜き撮影（60分）	60 分

■ 従来の立会検査（イメージ）



■ 遠隔臨場（イメージ）



■ ビデオオンデマンド(VOD)（イメージ）



安全管理の取り組み

事故防止等工事安全管理の取り組み

成瀬ダム工事事務所では、施工現場における労働災害防止の一環として、「成瀬ダム工事事務所事故防止対策委員会」を設置し、令和7年度の事業計画を立て「重大災害ゼロ」・「予定外作業・省略行動」の徹底排除を事故防止目標に取り組みを実施。

実施年月日	実　施　内　容	備　考
R7.4.25	【臨時安全パトロール①】 ・成瀬ダム堤体打設工事（第２期）	国：3名 受：2名（1社） 計5名
R7.6.24	【第1回　安全パトロール】 ・成瀬ダム庁舎建築工事 ・成瀬ダム管理所機械設備工事 ・成瀬ダム庁舎電気設備工事 ・成瀬ダム赤滝地区林道付替外改良工事 ・成瀬ダム電源設備工事	国：17名 受：37名（26社） 計54名
R7.7.15	【臨時安全パトロール②】 ・成瀬ダム庁舎建築工事	国：4名 受：5名（2社） 計9名
R7.9.11	【第2回　安全パトロール】 ・成瀬ダム原石山採取工事（第２期）	国：12名 受：30名（21社） 労：1名 計43名
R7.10.27	【臨時安全パトロール③】 ・成瀬ダム取水設備製作据付工事	国：6名 受：2名（2社） 計8名
R7.11.6	【第3回　安全パトロール】 ・成瀬ダム堤体打設工事（第２期）	国：17名 受：27名（23社） 労：2名 計46名
R8.1.16	【臨時安全パトロール④】 ・成瀬ダム堤体打設工事（第２期）	国：4名 受：3名（1社） 計7名

労：労働基準監督署　国：国土交通省　受：受注者

臨時安全パトロール点検状況
（成瀬ダム取水設備製作据付工事



令和7年10月27日

安全パトロール点検状況
（成瀬ダム堤体打設工事（第2期））



令和7年11月6日





事故防止対策委員会総会
（令和7年7月29日開催）

事故防止等工事安全管理の取り組み

国土交通省 東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

【令和7年度 成瀬ダム管内 工事事故 計4件】

①足場板が跳ね上がり左足の脛を切創

発生年月日	発生時刻	起因者	被害状況
R7.6.25（水）	11時40分	機械設備工	左足脛部の切創

管理庁舎の1階発電機室から外部へ出る際、足場板盛替え作業中の足場板端部に左足を掛けたところ、足場板が跳ね上がり、左足の脛部を切創した。

②下地材に触れた際に左手を切創

発生年月日	発生時刻	起因者	被害状況
R7.7.10（木）	10時10分	内装工	左手挫創

内装仕上げ工事において、天井ボード貼りの際に下地材である軽量鉄骨材（LGS）の野縁にずれがあり、位置を調整しようと手で叩いた際、左手親指付け根を切創した。

③溶接作業時に発生したスパッタにより資材倉庫が延焼

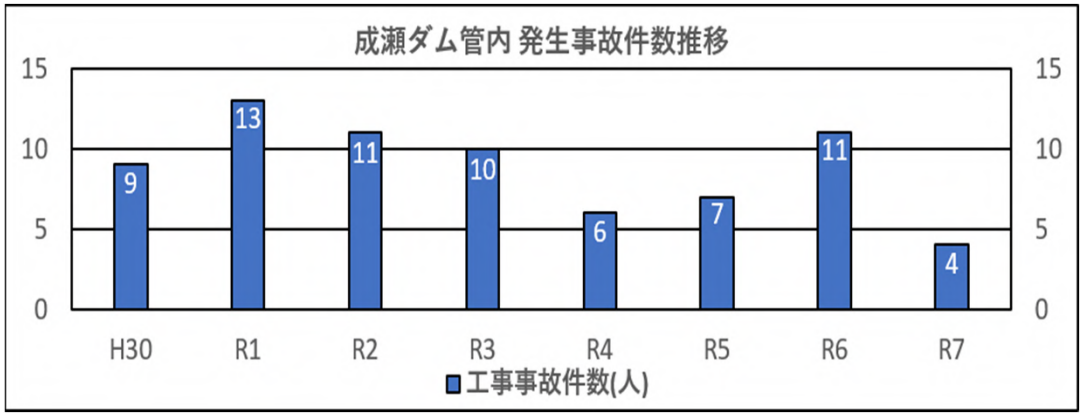
発生年月日	発生時刻	起因者	被害状況
R7.9.8（月）	9時55分	溶接工	資材倉庫の延焼

上流鉄筋加工ヤードにて、午前中に実施した鉄筋溶接作業により発生したスパッタ（火花）が溶接台下に設置した溶接くずよけ（木製パネル）上に堆積した状態となり、これが火種となり約4時間後に周囲の木製パネルに燃え移り、周囲の資材倉庫が延焼した。

④ボーリング作業中坑口の足場板に挟まれ右端指圧挫傷

発生年月日	発生時刻	起因者	被害状況
R8.3.25（水）	4時30分	ボーリング工	右環指圧挫傷

監査廊内において基礎処理工のボーリング作業中、着底したロッドを動かすためにパイプレンチで上端のロッドを回していたところロッド全体が下がった。この時、パイプレンチを掴んでいた右手が孔口に設置してあった足場板の間に挟まれ、右手薬指を負傷した。



【成瀬ダム建設工事現場における安全対策の取り組み事例】

＜施工エリアの安全対策＞

・建設機械と作業員の接触を防ぐため、作業員用の通路を設置。
・FVMフィールドビューモニターを搭載した機械を使用。





側面や背後の視界をモニターにより監視



歩行者用通路の明示

＜熱中症対策＞

・作業員の熱中症対策のため、黒球式熱中症指数計（熱中症アラーム「WBGT計測器」）を配布。
・現場休憩所等に熱中症対策グッズ（瞬間冷却剤など）を常備。

黒球式熱中症指数計
（熱中症アラーム「WBGT計測器」）



熱中症対策グッズ（瞬間冷却剤など）



＜クマ対策＞

・これまでの目撃情報を踏まえ、人目に付きやすい箇所に注意喚起看板を設置。
・作業員のクマ対策のため、スプレー、爆竹、鈴などの配布。



上流側：赤滝遊歩道への設置状況





クマ対策グッズ（スプレー、爆竹、鈴、ピストル）

地域振興の取り組み

成瀬ダム水源地域ビジョンの取組

「成瀬ダム水源地域ビジョン」は、令和9年度のダム完成に向けて、自立的かつ持続的な地域の活性化を目的に策定するものとして、令和6年12月に策定委員会を設立して検討を進めています。

【成瀬ダム水源地域ビジョン　検討フロー】

1．成瀬ダム及び水源地域の概要

令和6年度　2．基本理念と基本方針

基本理念
“成瀬ダム×地域資源×連携”でみんなが人と風土の豊かさを実感できる地域づくり

方針1：郷土の歴史・文化の継承、地域への意識醸成
方針2：「人と風土の豊かさを実感する」魅力向上
方針3：地域内の周遊観光の拡大から滞在型観光へ
方針4：地域資源を活かした産業の活性化
方針5：連携したプロモーション・情報発信等
方針6：雄物川流域、周辺地域等との連携・協調

令和7年度　3．行動計画（活性化の方策）

令和8年度　**4．推進方策**

令和9年度　成瀬ダム水源地域ビジョン とりまとめ

成瀬ダム水源地域ビジョン策定委員会　委員名簿

	所属	役職	氏名	備考
学識経験者	秋田大学　教育文化学部	教授	林　武司	委員長
	秋田大学　教育文化学部	教授	益満　環	
観光	（一社）秋田県観光連盟	専務理事	上田　智子	
水利用	秋田県雄物川筋土地改良区	理事長	柿崎　幹夫	
地域活動	NDM（なるせﾀﾞﾑﾐｰﾃｨﾝｸﾞ）取組推進部会	局長	鈴木　実	
行政機関	秋田県雄勝地域振興局	局長	小原　友明	
	横手市	市長	高橋　大	
	湯沢市	市長	佐藤　一夫	
	大仙市	市長	老松　博行	
	東成瀬村	村長	備前　博和	
	東成瀬村　教育委員会	教育長	大沼　一義	
	成瀬ﾀﾞﾑ工事事務所	事務所長	野口　暁浩	



第2回 策定委員会（R7.3.26）


第3回 策定委員会（R7.10.7）


第4回　策定委員会



ダム活キックオフミーティング（R7.1.26）


ダム活ミーティング2025（R7.12.14）

成瀬ダムにおけるダム湖の名称選定方法

国土交通省　東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

- 成瀬ダム水源地域ビジョン策定委員会では、成瀬ダムの完成により新たに創出されるダム湖（貯水池）が、地域の皆様にとって誇りや愛着を持ち、「自分たちのダム」と思って頂けるような名称を広く募集しています。
- ダム湖（貯水池）の名称選定にあたっては、「地域の地名・地理」、「歴史・文化」、「自然・産業」、「風景・印象」等を踏まえて応募して頂きます。



■ 募集概要



■ 募集スケジュール

※今後の状況によって変更になる可能性があります

令和8年5月1日	① 公募開始 ※範囲設定なし
令和8年7月17日	② 公募募集締め切り
令和8年8月上旬	③ 一次選定 ※10案程度を抽出
令和8年9月中旬	④ 住民投票開始 ※東成瀬村、横手市、湯沢市、大仙市在住、在学、在勤の方を対象
令和8年10月末	⑤ 住民投票締め切り
令和8年11月頃	⑥ 最終選定・ダム湖名称決定
令和8年12月頃	⑦ ダム湖名称公表予定
	⑧ 採用者等への表彰・記念品贈呈

（参考）　〇森吉山ダム：「森吉四季美湖」、〇胆沢ダム：「奥州湖」、〇津軽ダム：「津軽白神湖」

成瀬ダム“ダム活”ミーティング

国土交通省 東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

〇成瀬ダム水源地域ビジョン策定委員会(委員長:林武司秋田大学教授)では、成瀬ダムを活用した水源地および周辺地域の活性化を目指し、「成瀬ダム水源地域ビジョン」の策定に向けた検討を進めています。現在、令和7年3月に決定した「基本理念・基本方針」を実現するための「行動計画」について議論を進めており、今後の具体の取組につなげていくためには、周辺地域の方々と一緒に考え、広げていくことが重要です。
〇このため、『ダムを活かした地域の魅力向上・観光振興を考える』をテーマに、「成瀬ダム“ダム活”ミーティング」を開催しました。
〇当日は、会場に約170名の参加があり、同時配信したYoutubeライブも78回のアクセスがありました。

■ **開催日時** 令和7年12月14日(日)13時15分～15時30分　■ **開催場所** 横手市 浅舞地区交流センター／平鹿農村環境改善センター
■ **主　　催** 成瀬ダム水源地域ビジョン策定委員会　■ **後　　援** 東北地域づくり協会

※水源地域ビジョンとは：ダムを活かした水源地域の自立的・持続的な活性化を目的とした「水源地域活性化のための行動計画」で、策定にあたっては水源地域の自治体や地元住民、ダム事業者・管理者等が策定主体となり、流域の自治体、関係行政機関等に参画を得て進めていくもの。

プログラム

0．**オープニング「鍋倉囃子（なべくらばやし）」**
1．**開会挨拶**　横手市長　髙橋　大
2．**水源地域ビジョン基本方針について**　東成瀬村長　備前　博和
3．**基調講演**
『ダムを活かした地域の魅力向上について』
【講師】 秋田大学　教育文化学部　地域文化学科　准教授　益満　環
4．**“ダム活”ミーティング**
『ダムを活かした地域の魅力向上・観光振興について』
【コーディネーター】 水源地域ビジョン策定委員会 委員長
秋田大学　教育文化学部　地域文化学科　教授　林 武司
【パネリスト】
●秋田大学　教育文化学部　地域文化学科　准教授　益満　環
●（一社）みやざ大崎観光公社 常務理事兼ＣＯＯ 阿部 昌孝
● YAMAGATA EXPERIENCE 代表　堀江　守弘
5．**閉会挨拶**　湯沢市長　佐藤　一夫

●ミーティング要旨

■基調講演
・学生と連携し、大仙市でコメ農家と取り組む日本酒造りなど、地域と学生が協働する事例を紹介。
・ダムの「機能」だけでなく、視点を変え、マーケティングの要素を取り入れ、“楽しさ”などの付加価値を加えることが重要。
・国内の「ダム活」事例から見える成功要因として、①非日常性、②希少性、③収集欲が挙げられる。

■“ダム活”ミーティング
・地域にある観光・食などの資源を客観的に評価し、その強みを最大限に活かすことが、事業を継続する上で重要。
・東北地方は四季が豊かであり、冬季の豪雪も観光資源としてキラーコンテンツになり得る。
・岩手県の平泉や山形県の銀山温泉など、周辺地域の異なるコンテンツと組み合わせることで、成瀬ダムと周辺地域の観光資源を連携できる可能性がある。
・この地域で活動する方々（飲食・宿泊業、農業など）は、観光や成瀬ダムを活用した取組を進める上で重要なキーマンである。
・「麺文化」が盛んな市町が集まる地域は珍しく、共通項で連携すれば地域活性化に大きく寄与できる。学生との協働も期待される。

0. オープニングアトラクション「鍋倉囃子」



鍋倉囃子保存会による演奏の様子

1. 開会挨拶



横手市長
髙橋　大

2. ビジョン基本方針説明



東成瀬村長
備前 博和

3. 基調講演



秋田大学　准教授
益満　環

4. “ダム活”ミーティング



パネルディスカッションの様子

5. 閉会挨拶



湯沢市長
佐藤　一夫

環境保全の取り組み

・成瀬ダムでは、周辺の良好な自然環境と共存するダムづくりを推進するため、成瀬ダム周辺の環境影響について環境影響評価を行い、工事に当たっては、環境保全対策等の検討内容に沿って周辺の自然環境に配慮し事業を進めています。また、試験湛水を実施予定であることから、ダム完成前後の水質や生物等のモニタリング調査計画の作成及び調査を行っています。
・具体的な調査や保全対策の実施に際しては、個別分野毎に専門の有識者からの指導・助言を得ながら環境保全の検討・対策を行っています。
・本年度の環境モニタリング結果や次年度以降の調査、保全計画等について助言を得るため、「成瀬ダムに係るイヌワシ・クマタカ調査委員会」、「成瀬ダムモニタリング部会」を開催し、ご意見をいただきながら事業を進めています。
・**イヌワシ・クマタカ調査委員会において、委員から「令和7年度の工事による繁殖活動への影響はなかったと判断される」とのご意見をいただきました。**
・**モニタリング部会において、委員からご審議いただき、本年度のモニタリング調査結果と次年度のモニタリング調査計画に了承いただきました。**

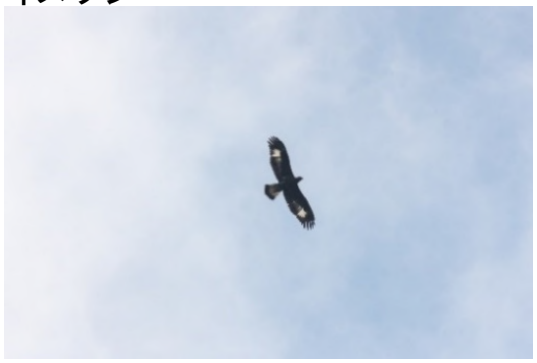
ナベクラザゼンソウ



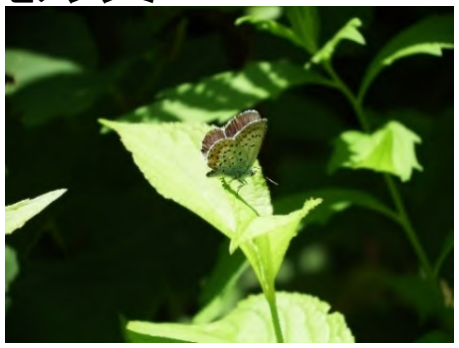
クマタカ



イヌワシ



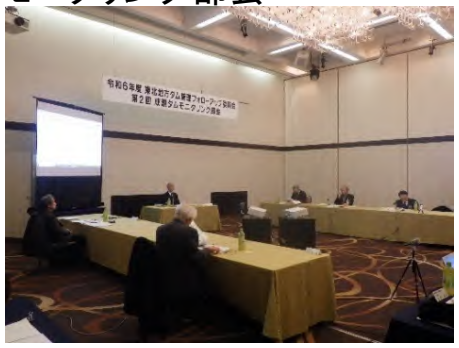
ヒメシジミ



サクラマス（ヤマメ）



モニタリング部会



イヌワシ・クマタカ調査委員会



広報活動 （令和7年度 見学会の実施状況）

国土交通省 東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

○令和７年度は、堤体打設最後の年であることから、「国内最大級ＣＳＧダムがいよいよ完成間近！」をキャッチフレーズに見学会等を中心とした広報を実施。また、建設業における残業規制の猶予期間終了、４週８休化に応じた見学コンテンツを企画。
○建設中である事を最大限活用し、超大型重機が往来する現場内を職員のガイドで循環する「アドベンチャーバスツアー」（平日及び土曜日）や「夜の現場鑑賞会・見学会」（2回/年）を開催するなど、参加者の立場に立った見学会を展開。
○見学会は、アドベンチャーバスツアー等に加え、夏休み自由研究応援企画「夏休みバスツアー」を実施。

～今しか見られない“巨大ダムの建設現場”体感してみませんか～　アドベンチャーバスツアー ２０２５

超大型のダンプカーとすれ違ったり、将来ダム湖となる堤体上流側から堤体を見上げたり、通常は見ることが出来ない成瀬ダムが造られていく様子を間近で見学。


原石山展望台からダムを見る！
※R7で原石山展望台は撤去


原石硬度確認
※R7で原石山展望台は撤去


重機の展示（休工時）


堤体直下で記念撮影（休工時）

上下流交流会（夏休み期間中）

ダム流域の小学生を対象とした交流会と現場見学会



東成瀬村まるごと自然館にて

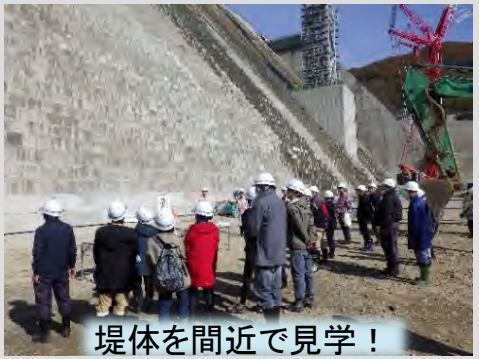
成瀬ダムまつり２０２５（８月下旬）

実行委員会形式を採用し、地域のお祭りとしての復興を掲げ、毎年8月下旬に村内の特設会場にて各種イベントを開催


VRを体験中！

秋の現場見学会（１０月下旬）

東成瀬村産業祭とタイアップした現場見学会


堤体を間近で見学！

教育機関等の見学（５月以降随時受付）

学生等を対象とした現場見学会（10月末まで）


増田中学校見学会

令和8年度　広報（見学会）計画

国土交通省　東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

○令和8年度は、堤体打設が終わりいよいよ終盤を迎えることから、「大自然が魅せる　日本最大級CSGダム！いよいよ完成！～「いま」だけの景色を。「いま」だけの体験を～」をキャッチフレーズに見学会等を中心とした広報を予定。また、建設業における4週8休化に応じた見学コンテンツを企画。
○見学会は、アドベンチャーバスツアー等に加え、今年度も　夏休みバスツアー　を実施予定。
○一方、アンケートにおいて、成瀬ダムの見学会等をきっかけに、国土交通省や建設系の学部（学校）を選択する学生が少なからず存在。
○建設業の厳しい採用状況を鑑み、建設業界を目指す学生を対象とした見学会を設定。
○競合する他の官公庁、特に自治体と国土交通省の違い、優位性を示すため、先進的かつ国内最大級のビックプロジェクトである成瀬ダムをリクルートに最大限活用。
○県内でも、成瀬ダムを視察していない高校・大学（県北、西目など）がある事から、リクルート活動において活用いただきたい。
※各事務所のリクルート担当から学校に対し「見学会」を紹介。原則、現地集合・現地解散。成瀬ダムは現場案内を担当します。

見学会の予定

○アドベンチャーバスツアー（ABT）
・期間：６月下旬～１０月中旬　平日又は土曜／月（全５回）
・対象：一般人
・内容：重ダンプ等が走行する現場内を巡るバスツアー

○上下流交流会
・期間：８月上旬
・対象：水源地及びダム下流域の小学生
・内容：ダム流域の小学生を対象とした交流会と現場見学会

○夏休み自由研究応援企画　夏休みバスツアー
・期間：８月上旬
・対象：こども及び保護者
・内容：こどもを優先とした現場見学会

○秋の見学会
・期間：１０月下旬
・対象：東成瀬村民、一般人
・内容：東成瀬村産業祭と合同で現場見学会を実施

○ダム活ミーティング
・機関：１２月上旬
・対象：水源地及びダム下流域の自治体及び関係者
・内容：建設完了後も持続可能な地域活性化手法を検討するための
　　シンポジウムを開催

○成瀬ダム見学会【国交省職員関係】　５月受付開始
・期間：６月～１０月　平日１回／月
・対象：国土交通省　職員
・内容：成瀬ダム見学会を整備局職員、全国のダム担当者に展開。
　　飛び込みの視察を減らし、業務を効率化。

○成瀬ダム見学会【教育機関関係】　５月受付開始
・期間：５月～１０月　随時
・対象：園児から大学生
・内容：成瀬ダムの先進的且つビックプロジェクトを通じて、自治
　　体等との違いを体感してもらう。


アドベンチャーバスツアー


教育機関による見学会

４．令和７年度事業実施状況

成瀬ダム建設事業の進捗状況

○予算執行状況

- **総事業費　　約2,600億円**
- **令和7年度　　約　228.5億円(補正予算含む)**
- **令和7年度迄　　約2,222.3(進捗率約85.5%)**

（令和8年3月時点）

補償基準他	H15.3　東成瀬村（村有地）用地買収に関する覚書締結
用地取得 (312.1ha)	99%（310.8ha）
家屋移転 (11戸)	100%（11戸）
付替国道(5.3km) 付替林道(2.0km) (合計7.3km)	100%（7.3km/7.3km）
ダム本体及び関連工事	仮排水トンネル（100%）／基礎掘削（100%）／堤体打設（100%）／試験湛水
事業進捗率 (約2,600億円)	約85.5%（約2,222.3億円）

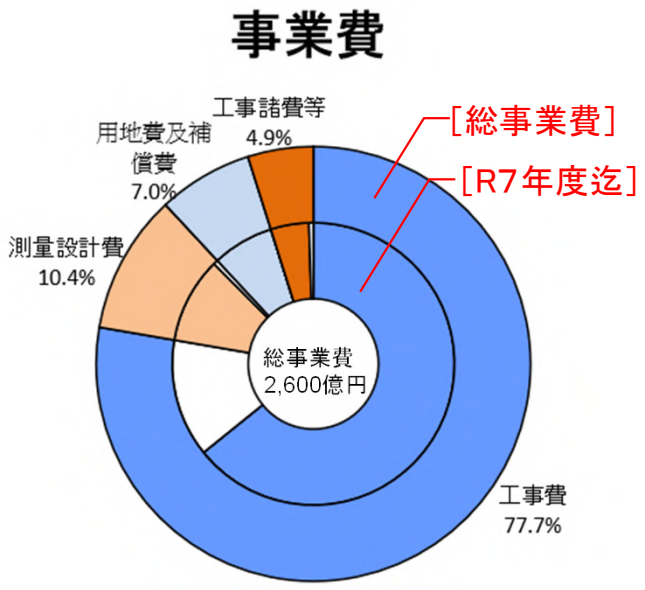
令和7年度　成瀬ダム事業費の概要

事業費の執行状況

	総事業費（億円）	R7年度迄		残事業費（億円）
		事業費（億円）	執行率	
工事費	2,020.2	1,669.2	82.6%	351.0
測量設計費	269.8	256.2	95.0%	13.6
用地費及補償費	185.2	185.0	99.9%	0.2
工事諸費等	124.8	111.9	89.7%	12.9
合計	2,600.0	2,222.3	**85.5%**	377.7

R7年度 の予算状況

	R6年度 当初＋補正（億円）	R7年度 当初＋補正（億円）
工事費	267.9	212.7
測量設計費	11.4	10.5
用地費及補償費	1.2	0.2
工事諸費等	6.4	5.1
合計	286.9	228.5



国土交通省　東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

令和7年度予算：228．5億円（当初＋補正予算）

《 計画貯水池平面図 》



※　上記のほか、水理水文調査、環境調査の各種調査検討等を継続する。

令和7年度　実施工事

件　　名	工　　期	契約額（※）	受　注　者	工　事　内　容
成瀬ダム堤体打設工事（第２期）	令和5年6月～令和8年12月	39,446,000,000円	成瀬ダム堤体打設工事鹿島・前田・竹中土木特定建設工事共同企業体	第１期工事に引き続き、ダムの堤体を構築する工事を実施。
成瀬ダム原石山採取工事（第２期）	令和5年6月～令和8年2月	17,589,000,000円	成瀬ダム原石山採取工事大成・佐藤・岩田地崎特定建設工事共同企業体	第１期工事に引き続き、ダムの堤体で使用する材料を採取する工事を実施。
成瀬ダム赤滝地区林道付替外改良工事	令和6年4月～令和7年10月	256,360,000円	（株）高修興業	付替林道、及び管理用道路の改良工事を実施。
成瀬ダム周辺施設整備工事	令和7年4月～令和8年3月	250,492,000円	（株）高嶋組	管理上必要な道路の維持・修繕や除雪を実施。
成瀬ダム電源設備工事	令和5年8月～令和7年8月	190,300,000円	（株）明電舎	ダム管理用の受変電設備および発電設備等の設置工事を実施。
成瀬ダム管理用制御処理設備工事	令和5年8月～令和7年12月	175,395,000円	（株）カナデンエンジニアリング	ダム管理用制御処理設備の設置工事を実施。
成瀬ダムＣＣＴＶ設備工事	令和5年8月～令和8年3月	97,559,000円	玉川電気工業（株）	ダム管理用としてカメラ設備の工事を実施。
成瀬ダム通信用鉄塔及び反射板工事	令和5年11月～令和8年3月	118,283,000円	日本鉄塔工業（株）	通信用鉄塔及び反射板の工事を実施。
成瀬ダム配電線設備工事	令和6年3月～令和8年2月	132,000,000円	（株）ユアテック	ダム構内に電線、光ケーブル、配管等を敷設。
成瀬ダム放流警報設備工事	令和7年2月～令和8年12月	36,597,000円	玉川電気工業（株）	放流警報設備の工事を実施。
成瀬ダム多重無線設備工事	令和7年3月～令和9年3月	52,250,000円	（株）進藤電機	多重無線設備の工事を実施。
成瀬ダム監査廊照明設備工事	令和7年3月～令和8年12月	80,003,000円	（株）大三洋行	ダム監査廊内に照明設備の工事を実施。
成瀬ダム試験湛水用ゲート設備新設工事	令和6年10月～令和8年11月	320,980,000円	（株）丸島アクアシステム	ダム試験湛水用としてゲート設備の工事を実施。
成瀬ダム取水設備製作据付工事	令和7年2月～令和8年6月	66,200,000円	（株）ＩＨＩインフラ建設	下流への利水補給、発電活用水を取水する設備の工事を実施。
成瀬ダムエレベータ設備新築工事	令和6年9月～令和8年12月	134,200,000円	三精テクノロジーズ(株)	ダム管理用としてエレベーター設備の工事を実施。
成瀬ダム庁舎建築工事	令和5年9月～令和7年9月	533,280,000円	鹿島建設(株)	ダム管理庁舎の建築工事を実施。
成瀬ダム管理所機械設備工事	令和5年9月～令和7年9月	181,137,000円	平鹿設備工業(株)	ダム管理庁舎の機械設備の工事を実施。
成瀬ダム庁舎電気設備工事	令和5年9月～令和7年9月	128,590,000円	伊藤電気（株）	ダム管理庁舎の電気設備の工事を実施。
成瀬ダム放流ゲート上屋新築工事	令和6年6月～令和8年4月	139,700,000円	（株）丸臣高久建設	ダム放流ゲート上屋の建築工事を実施。
成瀬ダム放流ゲート操作設備据付工事	令和7年7月～令和8年3月	35,695,000円	（株）丸島アクアシステム	ダム放流ゲート操作設備の据付工事を実施。
成瀬ダム場内整備工事	令和7年8月～令和8年3月	66,550,000円	（株）鈴木建設工業	ダム場内の整備工事を実施。
成瀬ダム堤体打設工事（第３期）	令和8年2月～令和10年3月	8,602,000,000円	成瀬ダム堤体打設工事鹿島・前田・竹中土木特定建設工事共同企業体	第２期工事に引き続き、ダムの堤体を構築する工事を実施。

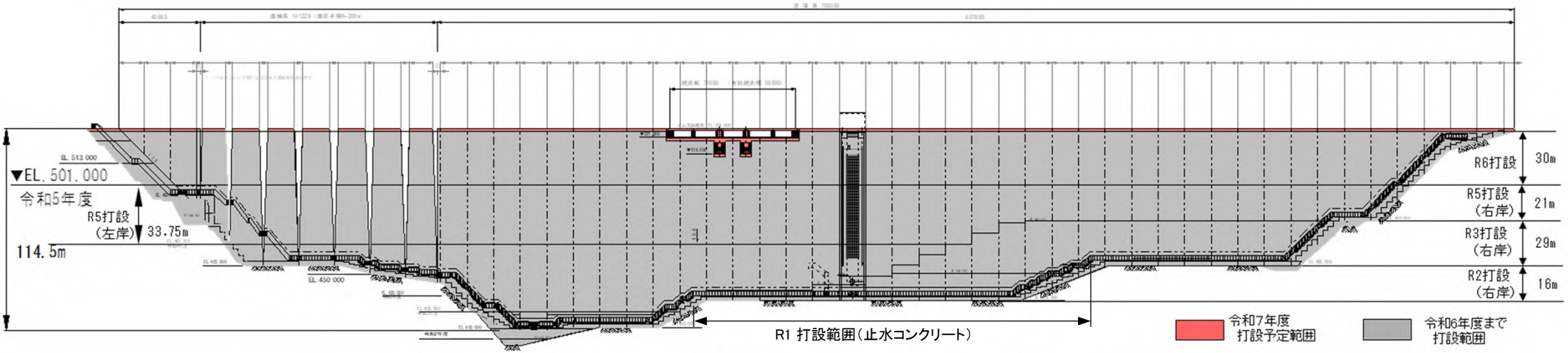
※ 全22件

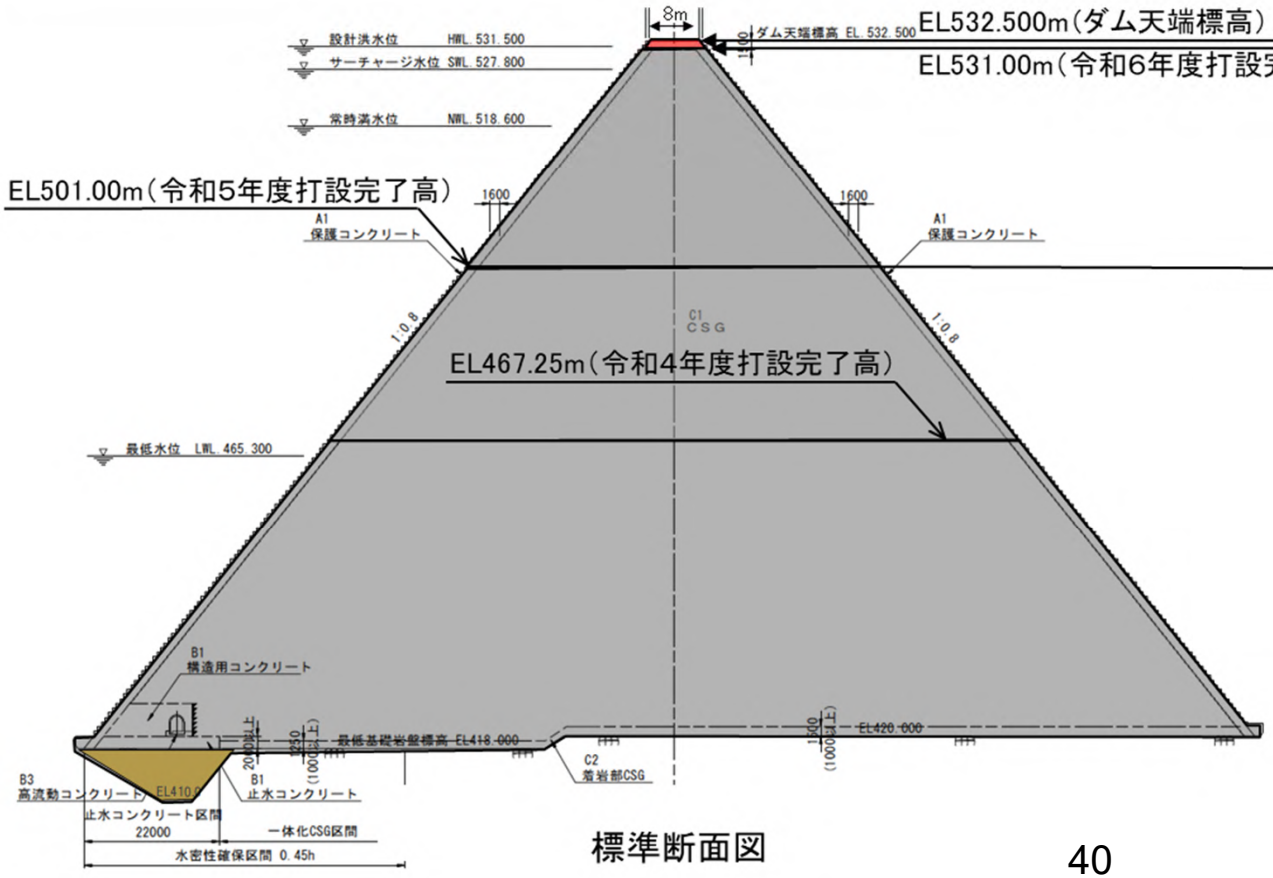
※令和8年3月末時点

成瀬ダム堤体打設工事　堤体打設進捗状況（R8.3月末現在）

国土交通省　東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

上 流 面 図





標準断面図

＜打設量＞

全体計画	485万m3
R7年度まで	485万m3（100%）
R1年度計	1万m3
R2年度計	34万m3
R3年度計	82万m3
R4年度計	135万m3
R5年度計	161万m3
R6年度計	69万m3
R7年度打設	3万m3

成瀬ダム原石山採取工事（CSG製造ラインの撤去状況等）

国土交通省　東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所



成瀬ダム原石山採取工事（原石山採取地における法面保護の完了状況）

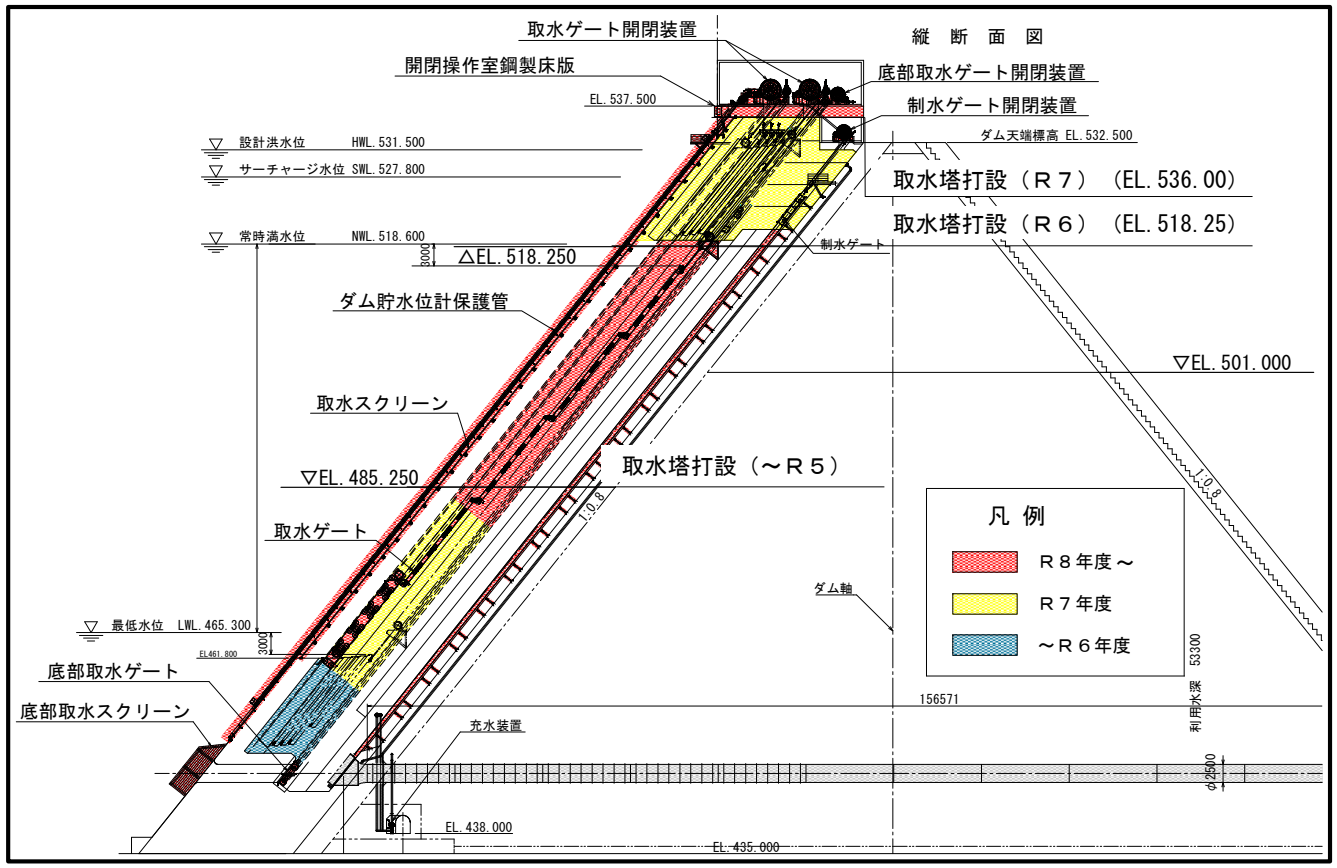


＜原石山採取施工進捗状況＞
全体計画【材料総量】　255万m3
（うち捨石および林道34万m3含む）
（R6末累計255万m3 ）

成瀬ダム取水設備新設工事　令和7年度工事進捗

◆設備の目的：下流への利水補給
◆取水方式：選択取水（任意の水位からの取水可能）
◆取 水 量：最大18m3/s
　（但し、底部取水能力は最大46m3/s(水位がSWL時)）
◆型　　式：【取水ゲート】直線多段式ローラゲート
　　【底部取水ゲート】ローラゲート（保安ゲート内蔵）
　　【制水ゲート】サーニットゲート

令和７年度取水設備（機械）進捗：65%完了（事業費ベース）
作業内容：工場製作（上部鋼製パネル）
　　：現地据付（鋼製パネル、取水・底部取水戸当り、空気管等）



○現地施工状況（R7. 6）



取水塔打設、取水パネル・水位計保護管等設置状況

○現地施工状況（R7. 6）



取水塔打設完、取水パネル・水位計保護管等設置状況

成瀬ダム付替林道改良工事

国土交通省　東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所



付替林道4

令和7年10月撮影

凡　例

	令和6年度まで
	令和7年度

付替林道3
L=540m

L=540m

付替国道2次供用区間

付替林道
L=540m

付替国道1次供用区間

現国道342号

付替林道1
L=2,200m

工事用道路
L=1,200m

	既設林道
	既設林道（補償対象）（ダム湛水により水没）
	既設林道（補償対象）
	ダム貯水池

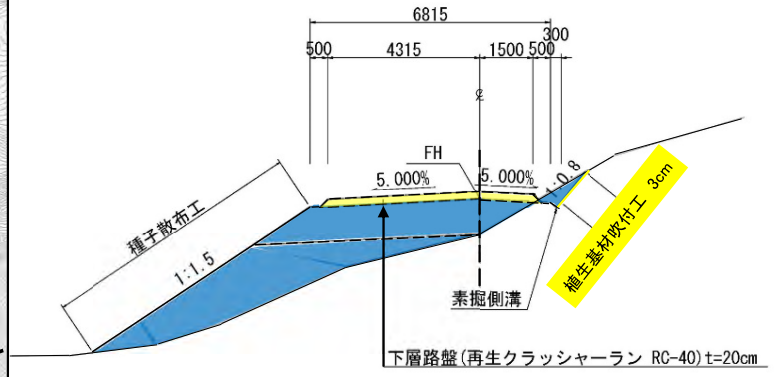
L=896m

L=401m

L=163m

付替林道4　L=1,460m

付替林道3





付替林道3

令和7年11月撮影

成瀬ダム管理庁舎の整備状況（令和7年9月30日完成）



全景　令和8年6月16日撮影



全景　（東側）　令和7年9月22日撮影



全景　（南西側）　令和7年9月22日撮影



1階エントランスホール　令和7年9月22日撮影



2階　会議室　令和7年9月22日撮影

成瀬ダム管理設備

国土交通省　東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

○令和7年度 実施内容
　電源設備（高圧受変電設備、予備発電設備、無停電電源設備）は完了し、ダム管理用制御処理設備、構内配電線設備、CCTV設備、放流警報設備、照明設備、通信設備を計画的に実施。

設備名称	予定施工年次 R5	R6	R7	R8
ダム管理用制御処理設備		工場製作	据付調整	据付調整
構内配電線設備		工場製作	配管配線	配管配線
高圧受変電設備		工場製作	据付調整	
予備発電設備		工場製作	据付調整	
無停電電源設備		工場製作	据付調整	
ＣＣＴＶ設備		工場製作	据付調整	据付調整
放流警報設備			工場製作	据付調整
照明設備			工場製作	据付調整
通信設備 （多重無線設備・移動体通信設備）			工場製作	据付調整

受電


ダム管理用制御処理設備


高圧受変電設備


放流警報設備（イメージ）


照明設備（イメージ）


移動体通信設備（イメージ）

令和7年度　調査実施結果

調　査　名		箇　所	調　査　内　容
環境調査	採水、流量観測（皆瀬川合流点～ダムサイト周辺）	採水６地点 流量４地点	・工事に伴う水質への影響を把握するため、ダム上下流で採水を実施する。（月１回、高水時） ・水理水文調査の一環として、流量観測を実施する。（月１回、高水時）
	魚類調査（ダム下流河川）	３箇所	同一箇所、同一手法で年３回（春季、夏季、秋季）調査を実施する。※
	陸上昆虫調査	１１箇所	保全対象種の現況把握を目的として既往調査地点の調査を実施する。
	植物調査	８地点	Ｒ６調査で確認された植物について、再調査を実施し種を同定する。
	鳥類生息調査（ダム上流支川）	３箇所	鳥類の生息の有無を確認する。
	騒音振動、環境モニタリング	騒音１箇所 環境３箇所	建設機械の稼働及び工事車両の運行等により発生する騒音振動の調査、及び粉じん等の拡散に影響を与える気象状況を把握する調査を実施する。※ また、ダム上流支川を対象に河川の巡視を実施する。
	植物モニタリング	１式	移植を実施した保全対象種の３種について、定着状況を確認するための調査を実施する。※
	猛禽類調査	１式	工事実施による成瀬ダム建設地及びその周辺地域における、イヌワシ・クマタカ類を始めとする、希少猛禽類の生息・繁殖状況の調査を実施する。※

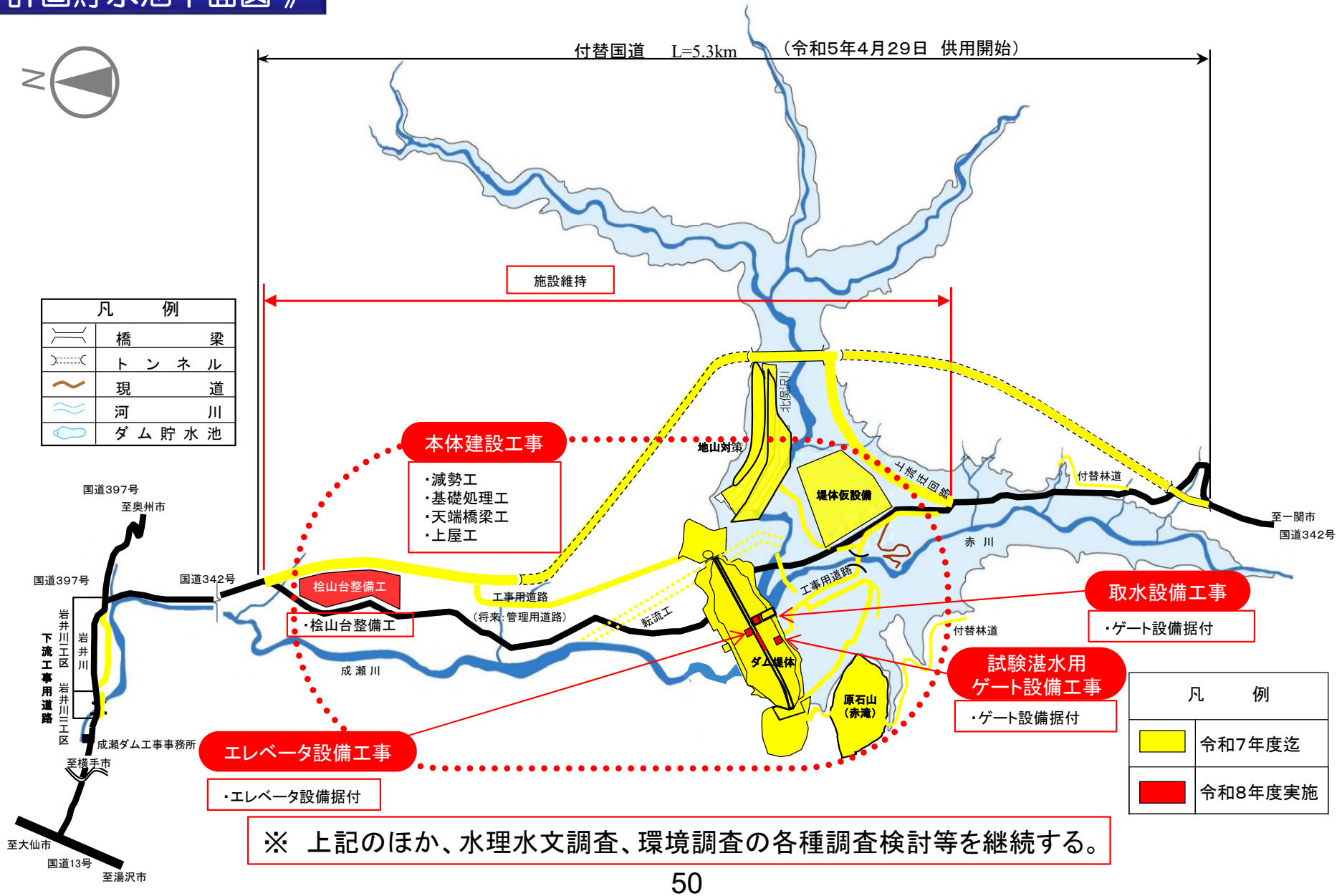
※事業の環境に対する影響を把握するための環境モニタリング

５．令和８年度事業計画

令和8年度　事業内容

令和8年度予算：225．0億円（当初予算）

《 計画貯水池平面図 》

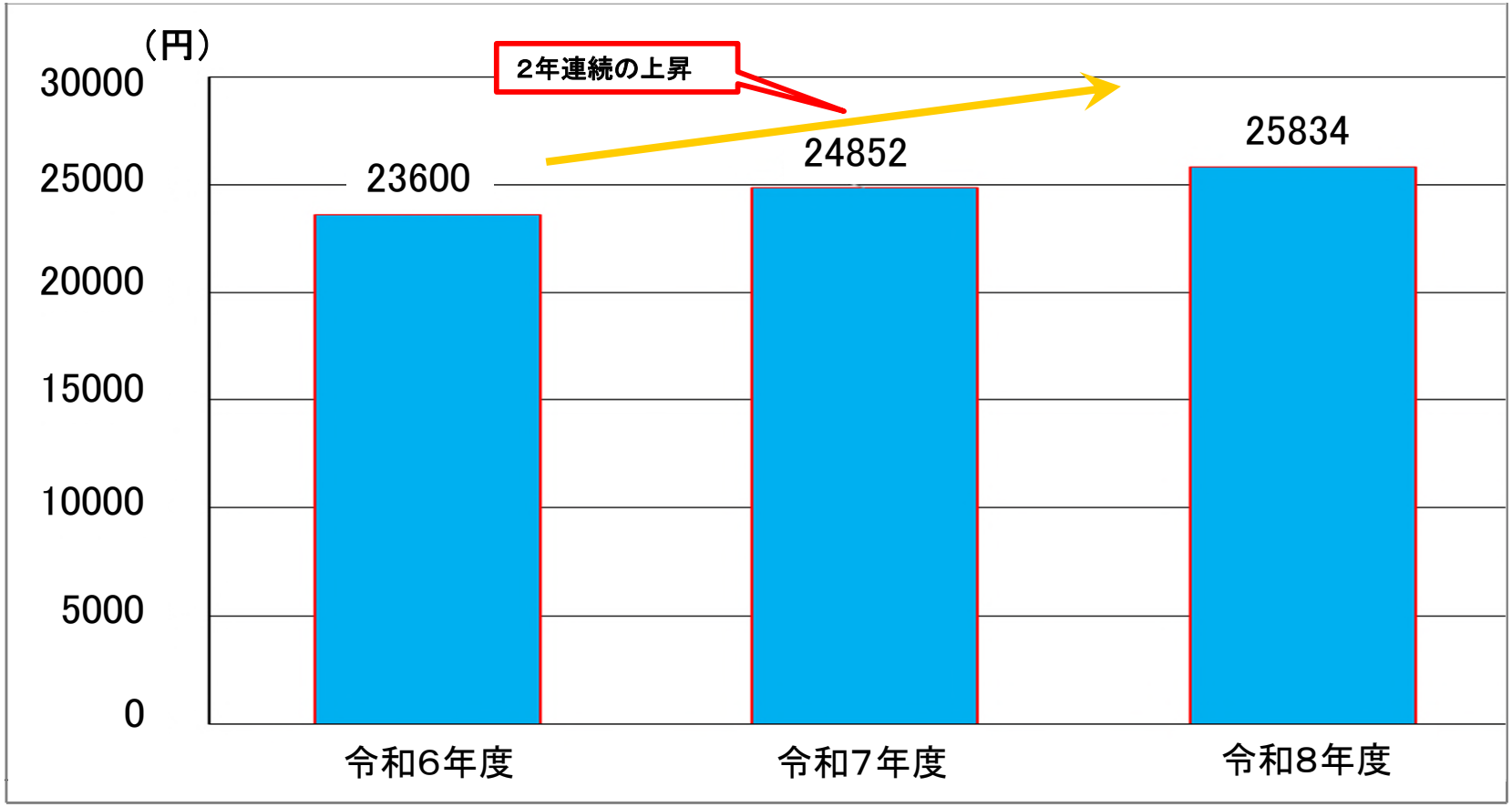


※　上記のほか、水理水文調査、環境調査の各種調査検討等を継続する。

成瀬ダム建設事業を巡る社会情勢

○令和６年の基本計画（第４回変更）に対して、秋田県公共工事設計労務単価 主要12職種：7.0% 上昇。

公共工事設計労務単価 秋田県12職種(R6･R7･R8)平均値の推移



参考：近年の公共工事設計労務単価(R7･R8)伸び率の推移

	R6	R7	R8	R6 比
主要12職種	—	→ +4.3%	→ +2.7%	+7.0%